



Title	大学院における臨床哲学という専門分野の設置と社会人特別選抜の実施
Author(s)	中岡, 成文
Citation	臨床哲学ニューズレター. 1998, 2, p. 19-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/81734
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大学院における臨床哲学という専門分野の設置と 社会人特別選抜の実施

中岡成文

平成10（1998）年度から大阪大学文学部が大学院に重点を置く大学になり始めるのともなう、大学院の倫理学は臨床哲学という専門分野に衣替えします（学部は倫理学の名称のまま）。

また、これと密接な関係をもつ改革として、平成10年度から社会人特別選抜（いわゆる社会人入試）の制度が大学院に導入されました。特別枠ではないので、社会人の合格者数は流動的で「若干名」とされ、また入学したら一般入試で入ってきた院生たちと扱いに区別はありません。社会人の方が受講しやすいように、いわゆる夜間の時間帯の授業も組まれています。

ここでは臨床哲学と社会人入試との関連に触れますが、多少の主観が入る可能性があるため、制度の正確なところについては直接に大阪大学大学院文学研究科の事務局（教務掛）にご確認いただくようお願いします。

さて、社会人入試のねらいは、何といても、社会人としての経験を学問研究に生かすことです。社会の現場での経験・知識の蓄積に、大学院での研究のインパクトと深みを加えてリフレッシュさせ、それを現場に持ち帰って新たなはずみにしてもらおう。それによって大学院に社会の風が通い、社会の変化に積極的にコミットするための刺激を受けるといふ、大学院の側のメリットにも注目したいものです。その意味で、社会人の方の入学は臨床哲学の発展にとってとても有益だし、それどころか不可欠とさえいえます。第1回（社会人特別選抜試験（博士前期課程、博士後期課程とも平成10年3月4日実施））では、看護や教育の経験者のみなさんが倫理学（臨床哲学）を受験してくださいました。入学されたあかつきには、重要な戦力として、これらの方々には大きな期待を寄せています。

社会人の入学については、制度的にも具体的な授業の組み方などについてもいろいろな手直しが必要になってくるでしょうし、臨床哲学に限っても、一般入試を受けて入ってきた従来タイプの院生や学生のみなさんと社会人の方たちの共同作業は、最初は少なからぬとまどいをくぐり抜けて行かねばならないでしょう。それでも、臨床哲学に関心を持ち、創設期の苦勞をいっしょに引き受けてみようという意欲のある方を、心からお待ちしています。